

はじめて

春ですごいですよね。

朝日がまぶしく、空気も澄みわたり、さわやかでリフレッシュした気分になれます。

「何か」が始まる。そんな予感をえさせてくれます。

今回、この小冊子を読んで下さっているあなたも、家の装いも新たに、気分もリフレッシュ！
「と、考えていらっしやる事でしょう。」

そんな家の塗替えや、外装工事にとどまらず、何かを新しくしたり、取り替えたりした時に、
多くの方が、「あー、こんなに気持ちよくなるなら、もっと早くやっておけば良かった。
今まで我慢してきて、損しちゃった。」と言っのを耳にします

それは、もちろん予算があつての事です。ですから仕方ありません。



しかし、それだけでは無いはずですよ。

例えば、屋根の雨漏りで天井や壁に「しみ」が出来た時。お風呂をユニットバスにしたり、キッチンを新しくしたくなった時。ベランダに屋根を付けたい時。クロスを張り替えたい時。玄関口や廊下に手すりを付けたい。屋根や外壁を塗り替えたい…。

そんな「ちょっとした修繕」から、「家のお手入れ」や「増改築などのリフォーム」まで、「やりたいな」と思ってはいても、我慢をしたり、あきらめたり、見ないふりをしてやり過ごしている方が、この最近確実に増えているのです。

つまり、あなたも含めて、皆さんが現在抱えているらしやる悩み、それは・・・、

「きちんと信頼できる業者が探せない。」

この一言に尽きるのではないのでしょうか？

もし、きちんとした確実な業者を知ってさえいれば、何も不安になる事無く依頼できるので
すから。

ガラスが一枚割れたのを取り替えたい、というだけでも、誰に頼んだら良いか分からずそのままにしている。そんなお宅の話もよく聞くのです。

職人が消えた？

こんな事になってしまったのは、一体なぜなのでしょう？

それは、一般住宅工事に大手企業が参入し、みなさんと職人の触れ合う機会が無くても良いシステムを作ってしまったからではないでしょうか？

それにより、皆さんにもわずらわしさが減りました。確かに良い面もあって、そのシステムは受け入れられました。今になってその弊害が出て来たのです。

また、考えられる原因はもう一つあります。

バブル期に「3K」と呼ばれ、建築業界に、若い人材がいなくなりました。私はこの道に入ってから、後輩の職人にほとんど出会った事がありません。つまり、今の職人の九割は、四〇代以上、半分以上は六〇代以上というのが今の建築業界の姿なのです。

しかもこの景気です。後継者のいない、年配の職人さんは、頑張っただけ必要もありません。そんな方から順に、廃業してしまう確率が、非常に多いのです。今まで頼んでいた工務店や、各工事店がいつの間にか消えて無くなっていったのです。

そして、それに代わり「リフォーム店」という業種が誕生しました。

元々「つて」があつて仕事をするわけでは無いこの業種では、訪問販売という形の営業方法で成長していきました。そして次第に、一般の人の建物に関する知識と情報不足に漬り込み、不当に高額な請求をしたり、手抜き工事をする業者が横行するようになったのです。

みなさんが恐れている悪徳業者は、このような背景で生まれたのです。

誰も好きこのんで、悪徳業者と付き合いたい人なんていないと思います。私だってそうです。

せつかく春のように、「リフレッシュしたいと思つても、これでは恐くて実行に移せません。

しかし安心してください。この小冊子を読んだ後あなたは、

- 訪問販売営業の手口が分かり、悪徳業者に引つかからないようになれます。
- 折込みチラシの不明瞭な価格設定の裏側を知ることが出来ます。
- 優良業者のやるきちんとした仕事の中身が分かります。
- 簡単な4つのステップで、優良業者を探せるようになります。
- あなたが工事中にしなければならぬ、いくつかが事が分かります。
- 塗装と塗料の知識が得られ、業者任せの施工にならずに済みます。

これら、業界の極秘事項を知る事となり、今までの不安から開放されるでしょう。

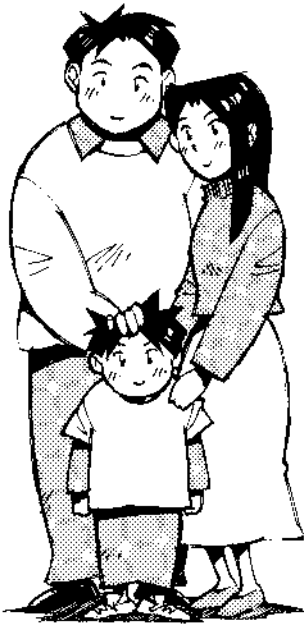
そして、とどまっていた一歩が踏み出せるようになるのです。

今のままでいる事はできません。

「家」は少しずつですが、確実に傷んでいきます。
その事を忘れないで下さい。

そして、少しでも早く、動き出してください。

家族が安心して暮らせる家のために



第一章 この小冊子を書かなければならない理由 わけ

本題に入る前に少しご説明いたします。私は、世田谷で生まれ育ち、二十一歳の時に家業を継ぎ、塗装職人になりました。

当時はまだバブル中でしたし、それまでも建築業界は右肩上がり、将来不況が来るなんて思ってもいませんでした。

しかし次第に不況の波が私たちの下へと忍び寄ってきました。そして、遂にはこのままではいけない、という事態にまで深刻化してしまったのです。

確かに今は、不景気ですが、それほど深刻に考えずここまで来てしまったのは、「職人だから営業なんてしない」という考えからでした。しかし、いつの間にか「お客様をただ待っているだけでは仕事は来ない」時代になっていたのです。

しかも、私は今まで、社長であり親方である父親に甘え過ぎて生きていました。現場では真面目に働いてはいましたが、こと営業計画の点では、口を出さないで来ました。いつか、自分が本格的に仕事を任せられる日が来る、とのんびり構えていたのです。

しかし、その考えがすでに崩れている事実には、ついに気がついたのです。このまま過ごしても、仕事が無ければ継ぐものが無い、と。

そして、初めて自分の数年後を思ったのです。父が引退した後の事を。

その時見えたものは、途切れたレールでした。二十一の時から、いや子供の時から、決められて、乗るべきものとして敷かれていたはずのレールが、目の前で途切れてなくなっていたのです。その先には、何も無い荒野。

気がつけばその時、生まれて初めて気付いたのです。これからの人生を、塗装職人として続ける道もある、しかし、そうでない道も選択できるんだ、という事に。

まさに「目からウロコ」が何枚も何枚も、ボロボロと落ちていくのを感じました。

この殻を破る事が出来ずに何年も何年も掛かっていました。

私の中で、抑えられていた何かが湧き出し、その勢いは誰にも止められない勢いにまで成長していたのです。そして、自分の周りを取り囲んでいた全ての事柄が崩れ、自分が自分として立っていないと倒れてしまう、その事の自由さと責任感を、初めて肌で感じて震えが来ました。

今の自分と、これからの自分を見つめ直す機会に出会った私は、この先の人生を、自分のやりたい事で生きぬいていこう、と決心したのです。

そこで一旦父親の会社を離れ、自分自身の力を試す道を選択しました。今までのある種の「甘え」とは決別しなければならぬと思いましたが、それを止めるべきものは、もう、何もありませんでした。私は自分自身を信じ、全てを賭けて自立する事を決意したのです。

現場からの声・事務所からの声

そこで、この小冊子で私は、自分の約二〇年の経験を全て振り返り、あなたが今最低限知っておかなければならない知識を凝縮してお伝えします。

この内容は、あえて書店で売られている雑誌や書籍で得られる情報は外してあります。もしかしたらあなたの予想と違った内容になっているかも知れません。それらのうわべの情報は大型書店でいくらでも手に入りますので、そちらをご覧ください。

ところで、なぜそれらの著者は、うわべだけの情報しか書けない、と私が断言できるのか説明します。

私の知る限り、そのような出版物の著者は、建築設計士や〇〇アドバイザーといった、とても立派な肩書きの持ち主です。また、リフォームや、建築の現場と、数多く関わってきた事で

しょう。その数は、私が関わった現場の数よりも多いかもしれない。しかも、知識と情報とモノを書く能力も私より段違いに優れているはず。しかし本当の事は、何一つ知らないのです。

例えば、実際にリフォームの現場で、足場を組んだことがあるでしょうか？四メートルのハイプ足場は重いです。恐らく持ったことも無いでしょう。

まして本当の仮設足場に登った事などある筈ありません。足場は規模が大きい程安全です。彼らは足場自体に階段が付いているような、マンションなどの立派な足場なら登った事はあるでしょう。でも実際には、戸建の二〜三階建ての足場ほど危険なものはないのです。2メートルの高さから落ちれば、人は簡単に死んでしまいます。下には何も無い訳ではありません。しかも、我々は右手にハケを、左手に塗料の入った缶を持ちながら作業をしている訳です。

もちろん、それを難なくこなすのがプロなので、それ自体は威張れる物でもなんでもありません。(恥ずかしながら、私はプロになる前の学生時代のバイト中に一回落ちた事があります。)

ですから、本来は、このように実際の現場で働く人間の声が発信できれば良いはずなのです。しかし、職人は、このように何かを「書く」事をしないのが普通です。

私は、今回、職人としてだけでなく、会社の代表者として直接お客様と触れ合う事になりました。すると、みなさんがいかに真剣に、信頼できる業者を探しているかを思い知らされました。

た。事態は遥かに私の想像を超えていたのです……。

灯台下暗しとはこの事です。私は自分の職種に対して少し認識が足りなかったようです。自分はずっかりやっていたので、今までクレームはありませんでした。他の業者でも同じなのだと勝手に思っていたのかも知れません。しかし事実は反対でした。塗装業者へのクレームが一番多いのだと言うことを知り、私は愕然としたのです。

最初に書き上げたリフォームのガイドブックを自分で読みかえた後で、やはり自分の最も得意分野の物も書かないといけないと思いました。この知識をみなさんにきちんと知ってもらいたい、本来こちらを先に書くべきだった。という事に気が付いたのです。

塗装店とリフォーム店の接点

「建物を直す職業」というと、誰もが、大工さん、と答えるでしょう。
では、「建物を傷まないようにする職業」といえば誰でしょう？

確かに大工さんや建築屋さん、建物を建てるのが仕事です。けれど、その後、その建てた家が、どういふ風に傷んでいくのかは、実は、我々にしか分からない事の方が多いのです。

なぜなら、大工さんが来る時には、既に対象部分が傷みすぎて、取替え工事をする時です。手遅れになってからですので、未然のチェックには詳しくはないのです。

そうやって、塗装屋として、住まいの外装などを手がけていくうちに、どこを手当てすればいいのか、どこから水が入り込んで、家を傷めるのはどういう場所からなのか。そういうことを含めて、家のことについては、総合的に経験・学習してきました。

あなたの家族が長年に渡って、快適に気持ちよく住み続けるためには、そんな外壁や屋根の傷みや、その手当て、内装や部屋の間取り変更、設備の取替えなど、必ずしなくてはいけない事が、数え切れない程あるのです

私は、経験上からも、「我が家を愛し、一年でも、一カ月でも長く暮らして行きたい。」
そう思っているお客様が数多くいらっしゃる事を知っています。

そんな方がもし、「今までの付き合いのあった工務店などが廃業してしまった」などで、業者選びに悩んでいらっしゃるのなら、このようなガイドブックがきつと役に立つはずだ、と思ったのです

ですから、この小冊子を読んでいただいた方に、私の会社で塗替えやりフォーム工事をして下さいと、願いますつもりはありません。